

特集 アジア映画の森

■上映スケジュール(各回入れ替え制)

10月2日(火) 変容するイラン映画
 16:20- 上映 「亀も空を飛ぶ」(97分)
 18:00- トーク **入場無料** ショーレ・ゴルバリアン(翻訳家)
 ×土肥悦子(映画館「シネモンド」代表)
 19:10- 上映 「ブラックボード—背負う人—」(85分)

10月3日(水) エドワード・ヤンそして東南アジアへ
 17:10- 上映 「花物語バビロン」(45分)
 +トーク: 石坂健治(映画研究者)
 ×空族(相澤虎之助+富田克也)
 19:10- 上映 「恐怖分子」(109分)

10月4日(木) 怪物的映画作家キム・ギヨン
 16:10- 上映 「下女」(108分)
 18:00- トーク **入場無料** 石坂健治(映画研究者)
 ×岡本敦史(ライター)
 19:10- 上映 「玄海灘は知っている」(117分)

10月5日(金) フィリピン・インディーズ
 16:20- 上映 「悪夢の香り」(95分)
 18:00- トーク **入場無料** 石坂健治(映画研究者)
 ×金子遊(映像作家・批評家)
 19:10- 上映 「クリスマス・イブ」(87分)

10月6日(土) アピチャップポンの森から映画の未来へ
 15:20- 上映 「アピチャップポンのウィラセタクン短編集」(計74分)
 17:00- 上映 「ワールドリー・デザイナーズ」(40分)
 +トーク: 金子遊(映像作家・批評家)×諏訪敦彦(映画作家)
 ×夏目深雪(批評家・編集者)

■料金

一般=1回券1200円/2回券2000円
 アテネ・フランセ文化センター会員/書籍「アジア映画の森」持参の方は1000円

※アテネ・フランセ文化センター入会をご希望の方は登録が必要になります。
 登録料:一般=1500円/アテネ・フランセ学生=1000円(2013年8月まで有効)

アジア映画の森 新世紀の映画地図

石坂健治、市山尚三、野崎敏、松岡環、門間貴志 [監修]

夏目深雪、佐野亨 [編集]

グローバル化とクロスメディアの波のなかで、進化しつづけるアジア映画。東は韓国から西はトルコまで——。鬱蒼たる「映画の森」に分け入るための決定版ガイドブック。アートからエンタテインメントまで国別の概論・作家論とコラムで重要トピックを網羅!

作品社 定価:本体2800円 [税別]

※当日、会場でも販売いたします。



特集 アジア映画の森

2012年10月2日(火)→10月13日(土) [日曜・月曜休館/10日間]
会場:アテネ・フランセ文化センター(御茶ノ水)

東は韓国から西はトルコまで
 鬱蒼たる「アジア映画の森」に分け入る10日間



企画:石坂健治、市山尚三、夏目深雪 | 主催:アテネ・フランセ文化センター | 共催:東京国際映画祭 | 協力:作品社、東京フィルメックス
 作品提供:オフィスサンマルサン、カグス、オフィス北野、空族、中影股份有限公司、ピターズエンド、金東遠、北九州市民映画祭、シネマトリックス、Cinemalaya Philippines
 Independent Film Festival、トモ・スズキ・ジャパン、全州国際映画祭、Aramid Capital、Defne Film Production、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭、アートポート、ブロードメディア・スタジオ、Films Distribution、中国インディペンデント映画祭、マクザム

「アジア映画の森―新世紀の映画地図」は、東は韓国から西はトルコまでを網羅したガイドブックである。各国の通史+2000年代の作家論という歴史の流れを縦軸とすると、それぞれの地域性を際立たせながら、地域を跨るコラムによる地誌学的なアプローチが横軸となっている。筋金入りのアジア映画ファンでも、アジア映画の全体像を掴むのはなかなか難しいとの認識から、作った本である。本書を通読すれば、臚げながら全体像が掴めるようになっていく。

とはいえ、実際には、映画を観てみないことには何も始まらない。今回は本で扱いがある重要作やレアな名作を上映し、執筆者を中心に解説、トークセッションしていただく場を設けた。本でも試みたことだが、できる限り多様な国の、多彩なジャンルの映画を、できる限り多角的な立場から分析すること。そうしてはじめて、アジアの森は私たちを受け入れてくれるはずだ。

夏目深雪 (批評家・編集者)

変容するイラン映画

長らくイラン映画の制作コーディネーター、通訳等を通してイラン映画の紹介に務めてきたショーレ・ゴルリアンさん。キアロスタミ監督作品を日本に紹介し、96・イラン映画祭を開催した。現シネモンド代表である土肥悦子さん。監督たちとも親交の深いお二人を迎え、政治的な困難のなかでも映画としての煌めきを失わず、最近ではキアロスタミ監督、ナディレ監督など日本との繋がりを深めているイラン映画の10年を検証する。(『アジア映画の森』関連頁p260-277)



亀も空を飛ぶ Kūsiyan ji dikarin bifiirin 2004 (97分) 監督 \$パフマン・ゴバティ
米軍によるイラク侵攻前夜のイラク・クルディスタン地方に生きる子供たちをパワフルに描いた傑作。映画における魔術的リアリズムとも言えき鮮烈な映像が見る者の心を撃つ。サン・セバスチャン映画祭グランプリを始め、数々の国際映画祭で高い評価を受けた。



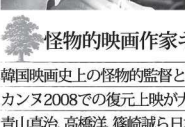
ブラックボード―背負う人― Takhtê siyah 2000 (85分) 監督 \$サミラ・マフマルバフマフマルバフ・ファミリーの長女サミラが弱冠20歳で監督し、カンヌ映画祭審査員賞を受賞した作品。イランのクルディスタン地方を舞台に、戦争で学校を失い、黒板を背負って旅する教師たちが遭遇する出来事を描く。ゴバディが子供たちを引率する教師として出演。

エドワード・ヤンそして東南アジアへ

本書監修者でもあり東南アジア映画研究・紹介の第一人者である石坂健治氏。「サウダーヂ」、「パピロン」シリーズ、「RAP IN TONDO」など、東南アジアへの越境を映画にしている映画集団、空族。両者がともに大きな関心を寄せるエドワード・ヤンと東南アジアをあいだに置くことで、見えてくるものとは。トークでは空族最新作情報も！(『アジア映画の森』関連頁p90-92)



花物語パピロン 1997 (45分) デジタル上映 監督 \$相澤虎之助
パピロンの花は阿片の花。1人のバックパッカーの若者が、ある夜見た夢に導かれて歴史の闇に葬り去られようとしている東南アジアの少数民族、モン族の村へと向かう。東南アジア近現代史を総括する相澤虎之助のライフワークである、3部作「パピロンシリーズ」の第一弾。



恐怖分子 恐怖份子 1986 (109分) 監督 \$エドワード・ヤン
ロカルノ国際映画祭銀豹賞などを受賞し「台湾ニューウェーブ」の頂点に立った、ヤンの出世作。台北を舞台に、偶然に交錯し合う3組の男女の姿を描く。早朝の銃声。カメラマン志望の男が逃走する少女を撮影。大都市の見知らぬ男女が希薄な関係をたどってつながっていく。

怪物的映画作家キム・ギヨン

韓国映画史上の怪物的監督として世界的な再評価が加速するキム・ギヨン。マーティン・スコセッシが尽力したカンヌ2008での復元上映が大きな話題となった『下女』。日本軍に徴用された朝鮮人兵士の過酷な運命を描き、青山貞治、高橋洋、篠崎誠ら日本の映画人も激賞する『玄海灘』は知っている。』コメンテーターはキム・ギヨンの発掘者でもある石坂健治氏とキム・ギヨンブリークのライター岡本敦史氏。(『アジア映画の森』関連頁p140,141)

下女 하녀 1960 (108分) デジタル上映 監督 \$キム・ギヨン
韓国映画史を代表し、キム・ギヨンの最高傑作と称される作品。音楽家の平和な家庭が1人のメイドによって崩壊していく…。子役時代のアン・ソンギも出演。2008年のカンヌ映画祭で復刻上映され観客を熱狂の渦に巻き込んだ。2010年にはイム・サンス監督のリメイク作(邦題『ハウスメイド』)も登場した。



玄海灘は知っている 현해탄은 알고 있다 1961 (117分) デジタル上映 監督 \$キム・ギヨン
『下女』と並ぶキム・ギヨンの傑作。太平洋戦争末期、日本軍に徴用された朝鮮人兵士ア・ロウンが名古屋の駐屯地で体験する凄まじい差別と戦争の不条理。ラストの大空襲のシーンは語り草になっている。(画像・音声の欠落部分が数か所ありますが、当該箇所には字幕画面で説明が添えられています。)

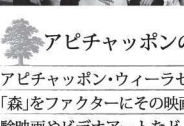
フィリピン・インディーズ

現在のフィリピン映画はインディーズの一大祭典であるシネマラヤ映画祭を中心に大きな盛り上がりを見せている。とはいえ、キドラット・タヒミックは30年以上前に、インディーズ映画であり個人映画でもある『悪夢の香り』を発表したのだ。石坂健治氏と映像作家、批評家でもある金子遊氏が、フィリピン・インディーズの流れを検証する。(『アジア映画の森』関連頁p170,230,231)



悪夢の香り Mababangong bangungot 1977 (95分) 監督 \$キドラット・タヒミック
「宇宙飛行士を夢見るフィリピン人青年がパリへ移住するが、待っていたのはチューインガム工場労働だった…。半自伝的な物語で、作家自身が主演し一人称で語るコメントリーは植民地主義への批判が、ユーモラスな形で込められていた。」(『アジア映画の森』p231)

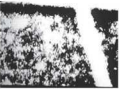
クリスマス・イブ Bisperas 2011 (87分) 監督 \$ジェフリー・ジェットウリアン
聖夜、アギナルド一家の留守宅が空き巣に荒らされる。盗まれた物から各人の抱える秘密があらわになっていく……。『もう一度』(04)『クブラドル』(06)の名匠ジェットウリアンが描く「緻密な室内劇。シネマラヤ映画祭グランプリ、東京国際映画祭2011最優秀アジア映画賞を受賞。



アピチャップンの森から映画の未来へ

アピチャップン・ウィーラセタクンは、本書では実験映画やアート作品の作家という側面から金子遊氏、

「森」をファクターにその映画の特異性に斬り込んだ論考を諏訪敦彦氏に執筆いただいた。今回は初期の実験映画やビデオアートなど、アピチャップンの別の側面が感じられるようプログラミングした。ともに映画作家であり旺盛な批評活動も行う両氏が見出す「未来形の映画」とは。本書編集者の夏目深雪さんがナビゲーターとなって探る。トークでは諏訪監督作品のサプライズ上映も。(『アジア映画の森』関連頁p177-183)



『森』



「この光、より多くの光」



「ハタナカ・マサトと撮るノキア」



「木を丸ごと飲み込んだ男」



『ASHES』

アピチャップン・ウィーラセタクン短編集 (計74分)

『**弾丸**』1993 (5分) 『**ダイヤル0116643225059をまませ!**』1994 (5分) 『**窓**』1999 (12分)

『**この光、より多くの光**』2003 (1分) 『**ハタナカ・マサトと撮るノキア**』2003 (2分)

『**ヴァンパイア**』2008 (19分) 『**木を丸ごと飲み込んだ男**』2010 (10分) 『**ASHES**』2012 (20分)

監督\$アピチャップン・ウィーラセタクン
彼の短編やビデオアート作品は、実験映像の特色である既存の映画文法への挑戦と、新しい映画言語を模索する態度に貫かれている(『アジア映画の森』p178)。シカゴ留学中に制作した処女作からビデオアートまで。作家自身が当企画のためにコーディネイトした短編集。



ワールドリー・デザイアーズ Worldly Desires 2005 (40分) 監督 \$アピチャップン・ウィーラセタクン

「物語や登場人物への興味の代わりに、カメラのゆくりした動きや、昼夜のジャングルに人間が立ち入るときの音響的なざわめきが、鑑賞者のまわりを取り巻く環境として提示されている」(『アジア映画の森』p178)。チョンジュ国際映画祭のコミッションで制作された中編映画。(日本語字幕なし、英語字幕付)

躍進のトルコ映画―新しいダイナミズム

近年、ベテランだけでなく新人もが次々と世界の主要な映画祭でも注目を集めているトルコ映画。クルド問題をめぐる数々の作品も内外で大きな反響を呼んでいる。今回は、恋人に逢いにイスタンブールから北イラクをめざす女性の旅路を描いた『私のマロンとブランド』と、発展をつづけるトルコ社会の影の部に生きる人々の苦悩に迫った『我が子、ジャン』を上映。トルコ評論家の野中恵子さんをゲストに迎え、本書編集者夏目深雪さんが聞き手となってトルコ映画の魅力の源泉を探る。(『アジア映画の森』関連頁p306-308)



私のマロンとブランド My Marlon and Brandu 2008 (93分) 監督 \$フセン・カラベイ

イスタンブールの女性が北部イラクの恋人とビデオレターで愛を育むが、戦火で連絡が途絶え、思い余った彼女は国境をめざす。トルコ、イラク、イラン、クルディスタンをめぐる遠程でのさまざまな出会いと困難…。ユーモアと緊迫が交差する実話ストーリー。東京国際映画祭2008最優秀アジア映画賞受賞作。



我が子、ジャン Can 2011 (106分) 監督 \$ラシト・チェリケゼル
男たるもの父でなければ。因習に吞まれ、闇のルートで養子を取った夫が姿を消し妻の悲劇は始まる。過酷な現実社会で二人が行きついた先は。そして「我が子」とは。長編デビュー作が世界各国の映画祭で8つの賞を受賞したラシト・チェリケゼル監督による長編二作目。

香港ノワールの魅力

80年代、ジョン・ウーの「男たちの挽歌」が口火を切った香港ノワールは、その後さまざまな才能を生み出し、香港映画の潮流を大きく変えた。2000年代以降、次々と傑作を放ち、世界が注目する映画作家となったジョニー・トー、ハードなアクション演出に定評のあるダンテ・ラム、いま最も脂の乗っている鬼才二人の作品を上映し、香港ノワール躍進の歴史を追い続けていた宇田川幸洋氏と野崎敏氏にその魅力を存分に語っていただく。(『アジア映画の森』関連頁p89,99-102,118)

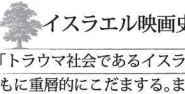


エグザイル/絆 放逐 2006 (109分) デジタル上映 監督 \$ジョニー・トー

『ザ・ミッション』非情の掟』の俳優陣が再集結したハードボイルド・アクション。返還直前のマカオを舞台に、再会を果たしたマフィアの仲間たちの姿をスタイリッシュに描く。トー映画の真骨頂である壮絶な銃撃戦と男同士との絆のドラマに胸が熱くなる。

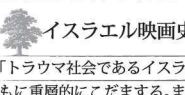


©2009 Media Arts Film (BA) Ltd. All Rights Reserved.



ビースト・ストーカー/証人 証人/The Beast Stalker 2008 (109分) 監督 \$ダンテ・ラム

日本では「密告・者」でブレイクしたダンテ・ラム監督による犯罪ドラマ。ある事件で少女を死なせてしまった過去をもつ刑事と少女の母親。そして彼女のもう一人の娘を誘拐した犯人の関係をめぐる因縁の物語。ニコラス・ツェーのハードな演技が光る。

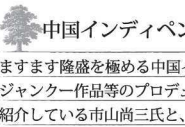


©2009 Emperor Classic Film Company Limited All Rights Reserved.

イスラエル映画史 第1部+ Historia Shel Hakohelevt 2009 (第1部 103分+第2部104分) 監督 \$ラファエル・ナジャリ

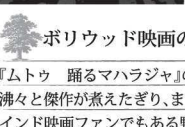
ユダヤ教正統派の家族における父親の失踪を描いた傑作『テヒリーム』で2007年東京フィルムフェス最優秀作品賞を受賞したラファエル・ナジャリによるドキュメンタリー。シオニズム運動、パレスチナ問題、周辺諸国との絶え間ない紛争、等々、常に政治的・社会的問題の影響にさらされてきたイスラ

エル映画の変遷を膨大な資料映像と数々の映画関係者へのインタビューを駆使し、独自の視点から描く。第1部では1933年から1978年まで、第2部では1978年から2005年に至る時代が扱われている。



中国インディペンデント映画の現在

ますます隆盛を極める中国インディペンデント映画の話題作、二作を上映する。コメンテーターはジャ・ジャンクエ作品等のプロデューサーであり東京フィルムフェックスにて積極的に中国インディペンデントを紹介している市山尚三氏と、ドキュメンタリーに関して健筆を奮う映画批評家の秋野亮氏。映画が映し出す、中国の現状とは。(『アジア映画の森』関連頁p56-58) 協力:中国インディペンデント映画祭



占い師 算命 2009 (129分) 監督 \$徐童(シュートン)

主に場末の娼婦たちを相手に占い師として生計をたてている障害者の夫婦とその周辺の人々に密着したドキュメンタリー。急成長を続ける中国経済とは裏腹に、社会の底辺に生きる人々の遅しさがユーモアを交えて生き生きと描写される。シュートンの監督第2作。

ピアシング! 刺痛我

交通事故に遇った老婆を病院に連れていった男が事故の犯人に疑われて警察に拘束されるという中国で実際に起こった事件を映画化。中国インディペンデント映画界から生みだされた初の長編アニメーション映画として数々の国際映画祭で高い評価を受けた話題の作品。



ボリウッド映画の魅力

『ムトゥ 踊るマハラジャ』の大ブーム以来日本ではなりを潜めていたインド映画だが、本国インドでは沸々と傑作が煮えたぎり、まさに爆発寸前である。インド映画の第一人者である松岡環さんと、仏文学者でインド映画ファンでもある野崎敏氏が、「本当に素晴らしい」と称する傑作、『オーム・シャンティ・オーム』を肴にボリウッド映画を語り尽くす。(『アジア映画の森』関連頁p35,239,236)



オーム・シャンティ・オーム Om Shanti Om 2007 (162分) デジタル上映 監督 \$アラール・カーン

大部屋俳優オームは、密かに恋する人気女優シャンティを助けようとして彼女と共に命を落とす。同じ時に赤ん坊オームが誕生。30年後、スターとなった彼は前世の記憶を取り戻すが……。爛熳豪華な歌と踊りに乗せて踏る、恋と因縁と復讐の物語。インドでは2007年の興行収入第一位を記録。